



発行 2019.6

多機能型障がい福祉サービス事業所 えーる油山

(管理者 小関正利・発行者 中野 梨紗)

福岡市城南区東油山 1 丁目6-39

TEL092-834-8900/FAX092-834-8910

E-mail:e-ru@sage.ocn.ne.jp

https://www.facebook.com/ashinoie/



施設長トーク 障がい者の生涯学習を進める？社会の障がい者理解は？

先月の5月号には「障がい者の生涯学習」について書いた。内容は、学卒後の学びの場として公民館や特別支援学校同窓会、大学の公開講座、障がい者施設による自立訓練や就労移行支援、就労継続支援などのサービスの場があり、国が活用を期待しているということである。簡単に申し上げると、福祉施設に学卒後の障がい者の学びの場を担ってくれということであろうと書いた。それはその通りであるが、どうも障がい者が先に学習をして社会に馴染んでくれと言っているように感じる。つまり、障がい者が学習する場の少なさはそのとおりであるが、障がい者を社会が受け入れる準備はできているのだろうかと考えてしまう。つい先日のこと、葦の家の仲間が(施設ご利用者のことです)左胸わき腹近くにできた肉芽種から少しずつではあるが、出血が4日間近く続くことがあった。ご両親も我々事業所職員も心配した。着ているシャツは血で染まるし、ガーゼを身体に当てても本人が取ってしまう。圧迫止血も冷やすこともさせてくれなかった。病院を受診したが治療は難しかった。開業医さんから大学病院を紹介いただいたけれども受け入れ出来ないとの返事であった。いったいこんなことがあっていいのだろうか。病人が目の前にいるのに障がい者だから治療を受けられないという現実をどう理解すればいいのだろうか。今回の件は、障がい者が病気になると保護者の負担感が急に増し、どうしてよいかわからない状態になることが当たり前にかかるというあまりに未整理な課題が浮き彫りになった。幸いに今、心ある開業医さんでの治療が続いている。このことは、皆で一緒に考える喫緊の課題であろう。同じ話題を葦の家ニュースにも書かせていただいた。

多機能型障がい福祉サービス事業所「えーる油山」管理者 小関 正利

★なかまCHANNEL★ ～令和について～

いよいよ平成が終わり令和となりました。平成の時代しか生きていないため、次の元号になるということは、わくわくもしますが、寂しい気もあります。

葦の家が始まったのは昭和で、どんなことがあってきたのかを見てみたい気もします(仲間 三浦倫史さんより)

♪博多どんたく港まつり・つくしんぼ祭りへ♪

博多どんたく港まつり(城南区演舞台)とつくしんぼ祭りへバザー出店を行ないました。おかげ様で売上げも好調でした！御来場、御購入していただいた皆様、ありがとうございました。(支援員 中野)

♪油山クリーン作戦へ♪

油山市民の森までの道中のゴミ拾いの地域行事に参加しました。参加された皆様、ありがとうございました。(支援員 藤吉)

♪新任職員紹介♪ その3

4月から入所しました山内恵美子と申します。新人ですが、えーる油山の仲間は自分の子どもと同じくらいという歳だけは新人ではありません(笑)。

三男に障がいがあり今までは保護者の立場で障がい福祉に関わってきました。えーるの仲間と新しい経験をたくさん積んでいきたいです。これからよろしくお願いします。

(支援員 山内)



6月の予定



6日 ハロディ春日店バザー

21日 健康診断(レントゲン)

11日 ハロディ橋本店バザー、健康診断(採血・採尿)

27日 ボンラパス薬院店バザー

18日 健康診断(問診)

20日 ハロディ周船寺店バザー

